

地域と共に 歩む



東北大学



東北大学は地域とともに歩んできました。

東北大学は、宮城県からの寄付など地元の支援の下で、明治40年に3番目の帝国大学として誕生、平成19年には創立100周年を迎えます。この間、現代社会に欠かせない—K S鋼、八木アンテナ、ピンダイオード、光ディスク、光ファイバー、アモルファス、CTスキャンなど—多くの発明や技術を生み出してきました。それを基に仙台に企業も創業されています。また、阿部次郎先生を始めとして仙台の香り高い文化の形成にも寄与してきました。

仙台市が「学都」と呼ばれるように、地元仙台市や宮城県そして東北地方の発展は、東北大学の発展と切り離せません。

東北大学は、
地域社会との絆を深めながら、
世界を見据えた
研究教育活動を行っています。



阿部博之総長



本多光太郎博士



八木秀次博士



西澤潤一博士



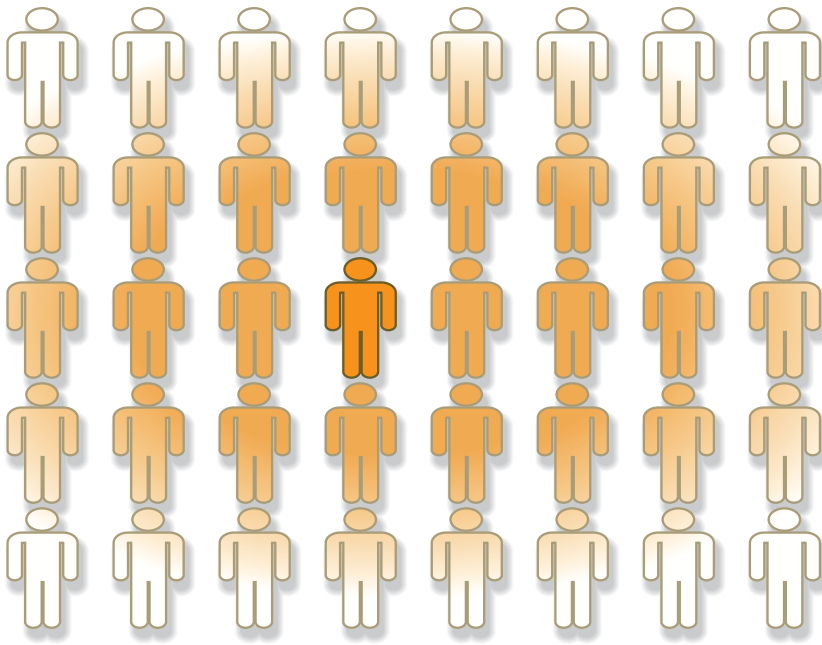
八木・宇田アンテナを初めて実用化した極超短波無線送受信機



東北大学1位を報じる「アジア・ウィーク」1999年4月23日号

東北大学は世界有数の大学です。

香港で権威ある英字週刊誌「アジア・ウィーク」は、年に一度、アジア・オセアニア各国の大学のデータを集め、分析・評価して、そのランキングを発表しています。このランキングで、東北大学は、1998年度第2位、1999年度第1位、2000年度第2位を占めました。本学は、国際的にもその実績が評価されています。これからも市民、県民の誇りとなるよう努力していきます。



仙台市民の40人に一人は 東北大学の直接関係者です。

東北大学は、10の学部、12の大学院、7つの研究所等を擁する総合大学です。ここには約25,000人の学生・教職員が学び、働いています。このため仙台市民のおよそ40人に一人は東北大学の直接関係者という計算になります。

学生や教職員の家族、また東北大学と取引のある人々を含めると、東北大学と関わりの仙台市民はもっと増えることになるでしょう。

東北大学学生・教職員数

東北大学内人口	合計	24,445名
大学院生		5,874名
学部学生		11,071名
短大生・研究生等		1,280名
教職員		6,220名

(平成12年5月1日現在)

東北大学の産業マネー効果

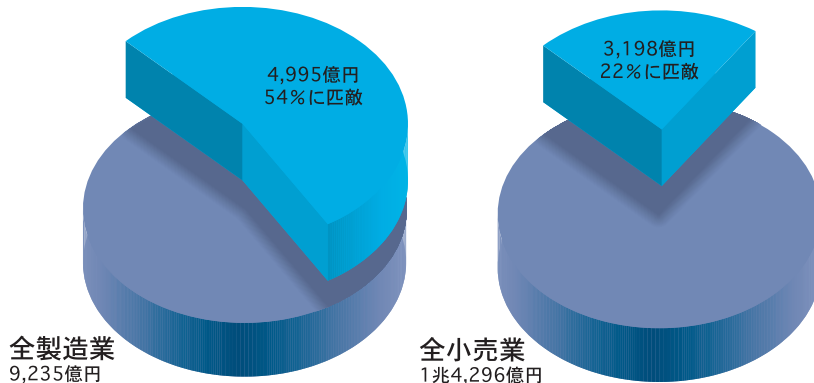
社会投下額合計 1,397億円



*1(118,000円/月×1万7千人×10月で計算)

産業マネー効果

東北大学の予算 1,196億円は仙台市内の



東北大学の経済効果は？

東北大学が1年間に支出する金額は約1,196億円です(平成11年度決算)。

NPO「地域・大学連携機構」代表幹事阿見孝雄さんの説^{注)}によると、仙台市における東北大学の経済効果は全製造業の54%、全小売業の22%に匹敵します。さらに学生が支出するお金201億円(試算)を加えると、東北大学関係機関・者から1年間に1,397億円のお金が投下されていることとなります。東北大学は、経済面でも地域と深い間柄で結ばれているといえるでしょう。

注)
「都市政策としての新学都・仙台」





史料館



魯迅ゆかりの
階段教室



理学研究科附属
自然史標本館



阿部次郎記念館



阿部次郎記念館
阿部次郎記念館
阿部次郎記念館

東北大学は、
「開かれた大学」として
地域の皆様に、
多彩な貢献をしています。



キャンパスには、 たくさんの市民が訪れます。

名物観光バス「るーぶる仙台」からたくさんの人が自然史標本館に吸い込まれていきます。川内キャンパスは、桜の季節お花見の家族づれがいっぱいです。大学キャンパスは、市民に緑と憩いを提供しているのです。ためしに川内にある植物園を訪れて見てください。草花と小鳥、そして雄大なモミの自然林が皆さんをやさしく迎えてくれるでしょう。

一方、大学構内には由緒ある文化財もあって、外国人を含めたくさんの人が東北大学を訪問します。中国のお客さんは必ずといって良いほど魯迅ゆかりの階段教室を見学します。東北大学の歴史を語る史料館も人気です。しばし、大正、昭和の昔に浸ることもできるでしょう。

大学祭や片平祭、国際祭など市民交流のイベントは、学生と市民、教職員と市民ふれあい、語らいの場としても好評です。

東北大学は皆さんの 学習のお手伝いをします。

自然史標本館、植物園、附属図書館、史料館、本多記念館、阿部次郎記念館その他大学施設は、我が国でも貴重な資料を塊集し、広く公開しています。近々総合学術博物館も市立仙台商業高校跡地に建設される予定です。このほか、資料や人材を活用し、附属図書館の企画展、大学教育開放センターの催し、公開講座の開催、無料法律相談などを行って、地域に開かれた大学として、生涯学習の立場から、市民の学習をお手伝いしています。



公開講座の開催



移植手術

東北大学の 活動例

医学部附属病院
教育学研究科

院内学級でのミニコンサート



先進医療で 地域医療の向上に貢献

一般診療を行うほか特定機能病院として、移植医療やその他の高度な先進医療を提供しています。また、医学教育を通じて、優れた医師の養成や、地域医療の向上にも貢献しています。

子どもたちへの 学習環境サポート

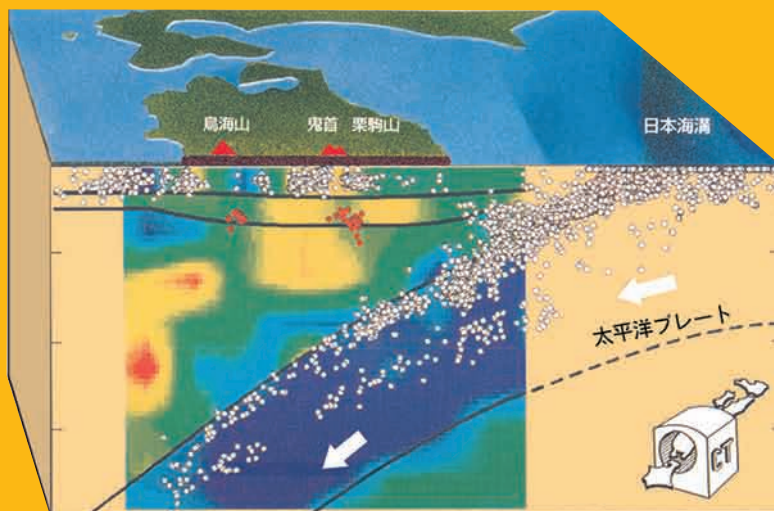
教育学研究科では、インターネットを利用して、広く不登校児や障害児の教育相談を行っています。これは我が国初の試みです。

また、附属病院内には、仙台市教育委員会の協力の下、院内学級(小学校、中学校)が開設されています。子どもたちが入院しても安心して学校教育が受けられるようにしているのです。

青少年に 楽しい科学の体験を

本学では、他大学の先生方も一緒に、サイエンスサマースクールを開催しています。12年度の内容は、中学生を主たる対象とする光やエレクトロニクスの実験でした。このスクールには大学生も参加・協力します。本学では、高度な研究だけでなく、近年「科学離れ」を心配されている青少年に科学の楽しさを肌身を通じて体験してもらおうと、努めています。

東北大学の 活動例 工学研究科



陸の下に沈み込む大太平洋プレート

地震発生・火山噴火の 予知を目ざして

被害を最小限にとどめるため、地震や火山噴火の予知ができればどんなに素晴らしいでしょう。最近の研究で、東北日本下の詳細な地震波速度構造が明らかになりました。左図では青い帯の大太平洋プレートが日本海溝から陸の下へ沈み込んでいます。宮城県沖地震は実はこのプレート上部境界面で発生する地震だったのです。また、火山深部は高温で、その周辺で低周波小地震(赤丸)が発生することも分かってきました。市民、県民の安全のため研究はさらに続きます。

東北大学の 活動例

地震・噴火予知
研究観測センター

新しい産業の創設を助ける

資源の乏しい我が国にとって産業の発展は不可欠です。新素材、情報技術、エネルギー、環境、パイオ等さまざまな分野で、新しい産業の創出が望まれています。当センターは、産業界や行政機関等と共同研究を行いながら、先端的かつ独創的な開発研究を通して、企業家精神に溢れた人材を育て、地域や国の産業技術力の強化に貢献しています。

東北大学の活動例

未来科学技術共同研究センター



東北大学の活動例

情報科学研究科

人間とロボットの共生に向けて

人間とロボットが、同じ空間でともに協力しあって生活する時代がもうすぐやってきます。単なる金属の冷たいかたまりではなく、仕事の上でもプライベートでも、よきパートナーとして互いに心を通いあわせることができ、互いのよいところを出し合うことで生活をより豊かにそして便利にします。これまで空想の世界でしか存在しなかったそんな風景の実現を目指しています。



サービスロボット「メイメイ」
この技術を基に介護用ロボットを開発中



味噌の秘密を探る

体の細胞や遺伝子を傷つけ老化やガンの原因となる活性酸素を消去するには、緑茶に含まれるカテキンのような抗酸化物質に加えて、もうひとつの成分が必要なのが解りました。味噌の原料でもある大豆に含まれるサポニンも、もうひとつの必要な成分に相当し、しかも抗酸化物質の働きを助けている成分だったのです。味噌は地場産品のひとつですが、本学では、生活に身近なものも重要な研究テーマなのです。

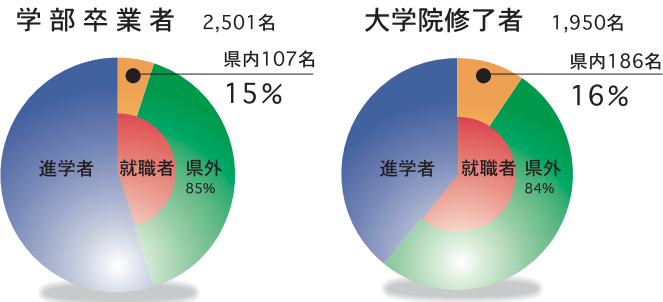
東北大学の活動例 農学研究科





宮城県総合計画審議会

東北大学卒業生・修了者における宮城県内就職者の割合



東北大学は様々な知恵を出します。

東北大学の研究者は研究室にこもってばかりいるのではありません。「東北インテリジェント・コスモス構想」を提言したように、地域や社会のために積極的に知恵を提供しています。国に限らず、宮城県、仙台市の計93の審議会や調査会、検討会等は延べ142名(平成12年度)の本学職員が委員として活躍しています。また、マスコミや市民活動のなかで、様々な提言や提案、発言を重ねていることは皆さんがよくご存知のことでしょう。

東北大学出身者が県内でも活躍しています。

東北大学は毎年たくさんの卒業生を社会に送っています。平成11年度には2,501名の学部卒業生、1,950名の大学院修了生を出しました。本学卒業生等は全国で活躍していますが、就職者のうち、学部卒業生にあっては約15%、大学院修了者にあっては約16%が宮城県内で働いています。

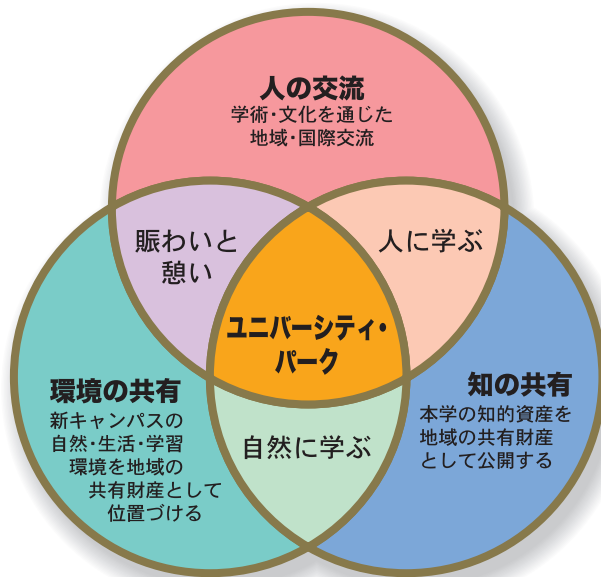


東北大学には世界から人が集まってきます。

平成12年8月、東北大学の主催で国際シンポジウムが開かれ、世界39か国から延べ4,200名の方が仙台に集まりました。このシンポジウムに限らず、東北大学には、現在、世界63の国から802人の留学生がやってきています。また、平成11年度の1年間に籍を置いた海外の研究者は、約1,300人です。本学主催で仙台で開催する学会も年間200件以上です。本学を訪れた他国の人々、また他県の人々が帰国帰省して、仙台市や宮城県の良さをお国の人々に広めてくださることを考えると、仙台が国際的な都市として発展していく礎としての本学の役割を感じます。



東北大学の未来像 ユニバーシティ・パークの さらなる地域貢献をいたします。

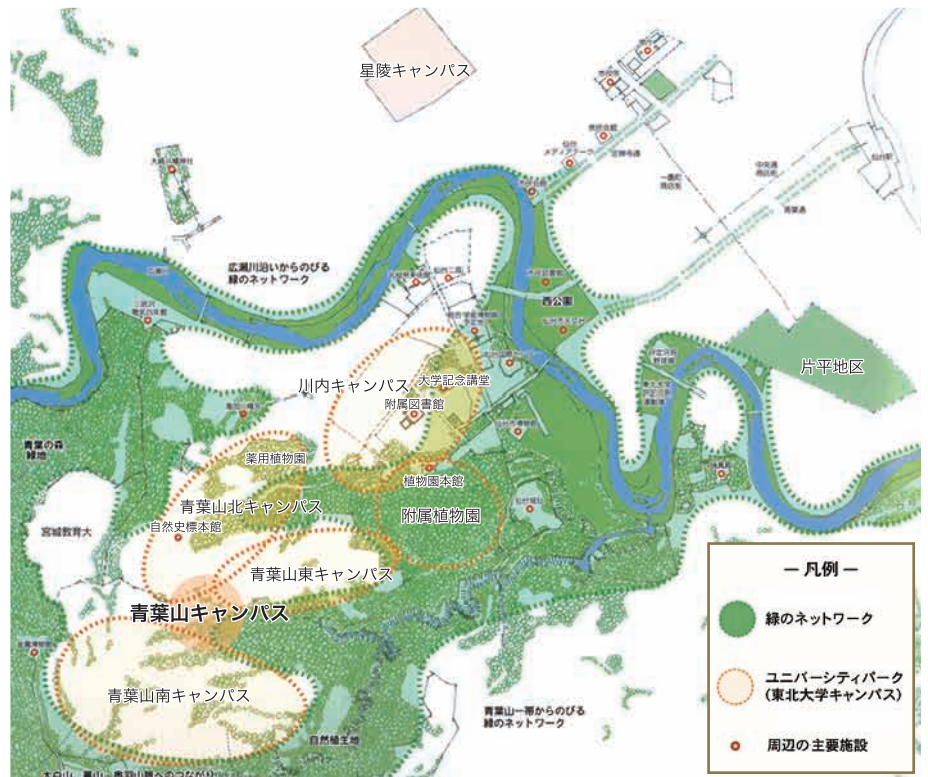


ユニバーシティ・パーク構想

キャンパスの移転統合計画

今、東北大学は、片平、川内、青葉山、星陵、雨宮の5つのキャンパスで活動を続けていますが、キャンパスが分散していることが研究教育の大きな障害となっています。将来は青葉山を中心に施設を統合し、環境を整えて研究教育活動を一層充実していきたいと考えています。「仙台21プラン」(平成10年仙台市基本計画)は、青葉山地域に「国際学術研究・交流拠点形成する」と述べています。

新しいキャンパスは、杜の都仙台のシンボルである青葉山の自然を保全し、市民・学生・教職員が互いに触れ合うことのできる開かれた大学を目指します。ユニバーシティ・パークがその基本コンセプトです。移転統合による東北大学の発展は、地域の経済的・文化的発展にもつながると確信しています。



本冊子では、大学の諸活動の一端を紹介しながら、地域と東北大学がいかに深い絆で結ばれているかについてお伝えしました。東北大学についてさらにお知りになりたいこと、お話ししたいことがあれば下記のところへご連絡ください。

東北大学事務局企画調査室
電話 (022) 217-5581~2

東北大学ホームページアドレス
<http://www.tohoku.ac.jp>